

さくら ほっと NEWS



紹介

▶ 抗がん剤を安全に使用するための取り組み

P. 2

特集

▶ 小児医療特集

P. 2・3

お知らせ

▶ 売店で「エコクーびよん」がもらえます！

▶ コンサートが開催されました♪

▶ ご意見ありがとうございます！

P. 4

理念

当病院は、地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、質の高い医療人を育成します

基本方針

- ・ 大学病院として、高度先進医療を提供します
- ・ 高度情報化を進め、安全で開かれた医療を提供します
- ・ 医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・ 名古屋都市圏の中核医療機関として、市民の健康と福祉を増進します

名古屋市立大学病院

vol.4
2008年2月

写真：病棟・中央診療棟9階エレベーターホール

病棟・中央診療棟9階(小児病棟)は、名古屋市立大学芸術工学部の鈴木賢一教授や芸術工学部の学生たちにご協力いただき、子どもたちが病院に対して持つ緊張感や恐怖心を和らげ、楽しい雰囲気の中で治療を受けることができるようデザインされています。

患者さんの権利等

患者さんの権利

- | | |
|-------------|---|
| 良質の医療を受ける権利 | 患者さんは、人格や意思が尊重され、質の高い医療を平等かつ安全に受けることができます。 |
| 情報を知る権利 | 患者さんは、ご自身の病気や治療について知ることができるとともに、十分でわかりやすい説明を受けることができます。 |
| 選択の自由の権利 | 患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身で選択し変更することができます。また、他の医師の意見を求めることもできます。 |
| 自己決定の権利 | 患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身の意思に基づいて決定することができます。 |
| 機密保持を得る権利 | 患者さんのプライバシーは十分に尊重されるとともに、個人情報は厳正に保護されます。 |

患者さんへのお願い

- 病院の規則や治療上必要な指示・助言を守って療養してください。
- ご自身の健康状態について、できるだけ正確に伝えてください。
- 説明を受けても十分に理解できない場合は、納得できるまでお尋ねください。
- 他の患者さんの権利を尊重し、暴言・暴力等の医療の妨げとなるような行為は行わないでください。
- 大学病院として医療スタッフを育成するため教育実習を行っていますので、ご理解とご協力をお願いします。

抗がん剤を安全に使用するための取り組み

～抗がん剤レジメンの確認と安全な調製～

みなさんは抗がん剤に対して、どんなイメージをもってみえますか。おそらく「副作用がとても強く、吐いたり、髪の毛が抜けたりする」といった印象をお持ちの方が多いのではないのでしょうか。また、抗がん剤を誤って使用したため、ひどい副作用が起きたなどの報道を目にされたこともあるかと思います。

なぜ抗がん剤はこれほど危険なのでしょう。それは「がん細胞を殺す」という作用のため、通常の薬と比べて「効果のある量」と「副作用が出る量」の差が小さいためです。ほんの少しの投与のし過ぎが副作用を招くこともあります。抗がん剤を使う際には、「効果」と「副作用」のバランスを考えながら使うことが非常に重要になってきます。

このように使い方に注意を必要とする抗がん剤を安全に使用するために、当院では専門の医師と薬剤師があらかじめ検討を行い、投与量や投与日、実施される患者さんのお体の状態に合わせた延期や中止などの方法といったスケジュール（このスケジュールのことを当院ではレジメンと呼んでいます）を厳密に決めています。抗がん剤を投与する患者さんはすべて電子カルテに登録され、医師が正確にレジメンに従った投与指示ができるように工夫していま



薬剤師による抗がん剤調製時の着衣

抗がん剤（注射や点滴）を混ぜ合わせる際、専用の服や帽子・マスク・手袋を着用してスタッフの安全にも配慮しています。

す。さらに投与前日には、薬剤師が医師の投与指示とレジメンの内容とを再確認しています。また外来化学療法室では、医師・薬剤師・看護師が参加するミーティングを毎朝開催し、その日に抗がん剤治療を受けられる患者さんの情報を確認し合うなど、スタッフ間の連携を図っています。

注射や点滴で使用する抗がん剤は、原則として薬剤師が患者さんごとに、正確にその薬の性質に合わせて混ぜ合わせています（このことを「調製」といいます）。外来化学療法室では専任の薬剤師が100%調製を行っています。その際には、調製の時に薬の成分が外に飛び散らない特殊な机（安全キャビネット）を使い、さらに専用の服やマスク・手袋などを着用して、患者さんだけでなく調製を行うスタッフの安全にも配慮しています。

その他、抗がん剤を安全に使用するためには、重大な副作用が万一起こってしまった場合に、できるだけ早く気づいて悪化を防ぐことも大変重要です。そのためには副作用について患者さん自身に理解していただくことが大切ですので、当院ではレジメンごとに「投与方法」や「患者さんが注意する点」などをまとめた説明文書を作成し、薬剤師が病棟や外来化学療法室で説明を行っています。



安全キャビネット

薬の成分が外に飛び散らないように、「安全キャビネット」の中で抗がん剤を混ぜ合わせています。



ワンポイントアドバイス

「子どもさんへのお薬の飲ませ方」

子どもさんがお薬を初めて服用する場合や、服用を嫌がる場合は飲ませ方の工夫をしてみましょう。ごく少量の水で団子状に練って口の中に塗りつけた後でミルクやお水を飲ませたり、お薬を甘いシロップ（ガムシロップ）やジュース、スポーツドリンクなどと混ぜることで、薬の味が嫌いな子どもさんでも嫌がらずに飲めることがあります。また、少量のヨーグルトやゼリー、アイスクリームなどに混ぜると、味も口当たりも良くなり、飲みやすくなります。

子どもさんがお薬を嫌がる時はぜひ「くすり相談室」（外来診療棟）の薬剤師にご相談ください。



子どもたちのいのちを守っています

小児医療特集

分娩成育先端医療センター・NICU (新生児集中治療室)

” from the cradle to the grave
(ゆりかごから墓場まで)”

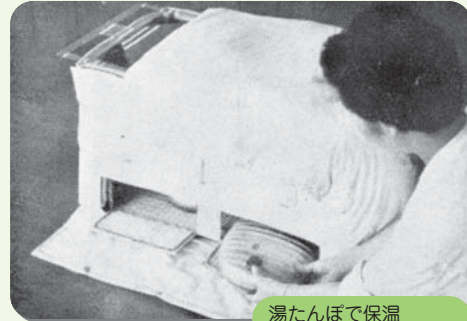
これは有名な英国の社会福祉政策のスローガンですが、私達分娩成育先端医療センターNICU部門は産科部門との協力のもと、妊娠・分娩・新生児管理はもとより、この“ゆりかご”に入る前(受精前)から、患者さんのご家族を交えた“家族参加型”チーム医療を行っています。週1回定期的に行っている産科、小児外科との周産期カンファレンスにはドクターだけでなく看護師が参加し、必要に応じて小児整形、小児泌尿器、心臓血管外科、脳神経外科、眼科医の意見を取り入れながらトータルの医療を実践しています。

また、当院はわが国で最初に開設されたNICUの1つとして50年余の歴史があり、新生児用医療機器の開発拠点となるなど、新生児医療のパイオニア的存在として研究・教育・診療活動をしてきました。最近では赤ちゃんの肺に



“やなぎごおり(柳行李)”を用いたわが国最初の保育器。
1953年(昭和28年)制作

優しいN-DPAP療法(鼻に装着するだけで自分の自発呼吸を生かして呼吸管理が出来る特別な療法)、肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法(血管拡張作



湯たんぽで保温
1953年(昭和28年)頃

用のある一酸化窒素ガスを直接肺から吸入させて収縮している肺血管のみを選択的に拡張させる療法)、エリスロポエチン早期療法(貧血の治療薬であるエ

リスロポエチンを生後早期に投与し早産児の脳を護る療法)の臨床試験事務局にもなっています。

さらに平成16年の病棟・中央診療棟開院以降は、“開かれたNICU”として入室時に着替えや下足履き替えなしに家族やコメディカルの方が自由に入出りできるようになりました。また平成19年4月からは、看護師1人が新生児3~6人を受け持つ体制となり、6人の医師と31人の看護師のもと本格的な高度先進医療がスタートしています。

(分娩成育先端医療センター
副センター長 鈴木 悟)



最新の保育器

ホスピタル・クラウンを知っていますか?

ホスピタル・クラウンとは病院で入院生活を送る患児の病室を定期的に訪問して、遊び・コミュニケーションを通して子どもたちの笑顔をはぐくむ臨床道化師のことです。発祥はアメリカですが、現在は世界的に活動の場が広がってきています。ホスピタル・クラウンは、笑って楽しい気分を保つことが体に良いという考えの下に『わらい』を病院に届けており、笑いの専門の教育に加えて病院での知識や衛生面についての教育を受けたうえで、病院に入院している一人一人の患児のベッドまで訪問して『わらい』を届けてくれています。現在、当院には9階北小児外科病棟と9階南小児病棟に、2週間に1回訪問してくれています。

患児の様子はじつにさまざまで、クラウンを遠くから見て怖そうにしている子もいれば、「まだかな、まだかな」と隣の部屋の様子を気にしながら待ちきれずに廊下をウロウロする子もいます。しかし、はじめは怖そうにしている子もクラウンと遊んでいるうちに次第に打ち解け、目をきらきらさせて遊びに夢中になっていきます。訪問が終わった患児

のベッドには、風船で作られた犬などの動物が飾られ、お部屋のアクセサリになっています。子どもたちや付き添っているお母さんたちも癒され、喜んでいきます。毎回、わらいと癒しを病棟に運んでくれるのがクラウンです。クラウンの訪問を子どもたちとお母さんたちと一緒に今度は何をして遊んでくれるのか、どんな笑いをくれるかな〜と楽しみに待っています。

テルちゃんをはじめいつも訪問してくださるクラウンさんありがとう。



売店で「エコクーびょん」がもらえます！

病棟・中央診療棟地下1階にある売店「グリーン・リープス」が市内共通還元制度「エコクーびょん」に参加しています。

「グリーン・リープス」では200円以上の買い物をしてレジ袋を断ると、市内共通のシールを1枚もらうことができます。このシールを台紙（参加店でもらえます）に貼って20枚集めると、50円分のお買い物券として使用することができます。また、お買い物券として使用しない場合には、お店

にある「エコクーびょんの樹」ポスターにシールを貼るとEXPOエコマネーが行う植樹への寄付となります。

環境の保全やごみの減量を進めるためにも、是非「エコクーびょん」にご協力ください。



コンサートが開催されました♪



去る11月30日（金）に、病棟・中央診療棟3階の大ホールにおいて、名古屋フィルハーモニー交響楽団による弦楽四重奏ミニコンサートが開かれ、入院患者さんをはじめ、付き添いの方など約160名の来場がありました。中には、早くから会場入りして開演を待つ方や、途中からでも聴きたいと息せき切っていらっしゃる方もありました。

コンサートでは、クラシックや日本民謡、歌謡曲など耳慣れた多種多様な曲が、弦楽四重奏による柔らかな旋律としてホールに響きわたりました。また、曲の間には、演奏者による説明もあり、とても聴きやすく、会場の患者さんたちは思い思いに聴き入り、癒しのひとときを過ごしていただくことができました。

去る12月21日（金）と12月24日（月・祝）の2日間、外来診療棟1階アトリウムにあるピアノ前において、ボランティアによるクリスマスコンサートがあり、2日間あわせて約120名の来場がありました。

21日は医師や医学部学生その他、院内学級の生徒さんや患者さん等が出演しました。院内学級の生徒さんのサンタ姿に、訪れた患者さんたちから「かわいい！」という声も聞かれ、とても華やかで楽しいコンサートとなりました。

24日は医学部学生や名工大学生・OBで結成された「瑞穂弦楽四重奏団」によるコンサートが行われました。美しい弦楽四重奏の調べに、訪れた患者さんたちは静かに聴き入っていました。



ご意見ありがとうございます！



① 1階アトリウムへの時計の設置

新外来棟オープン当初、アトリウムの見やすいところに時計が無く、多くの患者さんから設置の要望がありました。

当院では、患者サービスの向上を図ることを目的として、「患者サービス向上委員会」を設置しています。重要な活動の一つとして、ご意見箱の管理があります。皆様から様々なご意見が寄せられますが、実際に改善を行った事例について報告いたします。



② タクシー乗り場付近への車いすの配置

新外来棟オープンにより、駐車場から病院玄関までの距離が遠くなったため、多くの患者さんから設置の要望がありました。

他にも様々なご要望を頂戴しておりますが、皆様に快適な療養環境を提供できますよう、改善に努めてまいります。お気づきの点がありましたら、ご遠慮なくご意見をお寄せください。

名古屋市立大病院

検索

<http://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/>



このQRコードをケータイで読みとると簡単にホームページが見られます。

ホームページの検索方法の案内『名古屋市立大病院』で検索

クリック

名古屋市立大病院 さくらほっとNEWSへのご意見・ご感想をお寄せください。E-mailは hotnews@med.nagoya-cu.ac.jp まで！